

【「理解したつもり」について認識しよう】

1. 「理解したつもり」とは

理解したつもりとは、自分は理解していると思っけていても実際は理解していないことです。例えば、住宅を造るための様々な工法を紹介する本に「〇〇工法は木造住宅だけに適用できる」と書いてあったとします。ある人がこの内容を読んだとき、「〇〇工法とは木造住宅だけに適用できるのか。〇〇工法について理解した」と判断したとします。

しかし、実際には「〇〇工法について理解したつもり」です。例えば、「〇〇工法は、なぜ、木造住宅だけに適用できるのか？ 技術的な根拠は何か？」などの質問を受けても回答できないからです。「〇〇工法について理解している」とは、〇〇工法についてどのような質問を受けてもその質問に回答できることです。

2. 理解したつもりで技術文書を書かない

書き手が理解したつもりで書いた技術文書ではその内容が読み手に明確に伝わらないからです。読み手は「知らない人^{注)}」だからです。

業務報告書の中に「〇〇工法は木造住宅だけに適用できる」と書いても読み手に〇〇工法の内容が明確に伝わりません。読み手は「〇〇工法について知らない人」だからです。これを認識して、「〇〇工法が木造住宅だけに適用できる技術的な根拠、鉄筋コンクリート造に適用できない技術的な根拠」などを書くことで読み手に〇〇工法の内容が明確に伝わります。

「理解している」で、読み手の立場に立った技術文書を書くことができます。つまり、「理解している」で、内容が明確に伝わる業務報告書を書くことができます。

注)：『知っている人』と『知らない人』の資料を参考のこと

3. 理解したつもの見つけ方

理解したつもの見つけ方の一つの方法は自問自答することです。つまり、「なぜ、〇〇なのか？」と自問することです。この問いに対して答えが出れば「理解している」、答えが出なければ「理解したつもり」です。例えば、業務報告書の中で「〇〇工法は木造住宅だけに適用できる」と書いたとき「なぜ、木造住宅だけに適用できるのか」と自問することです。

伝える内容に対して「この内容、理解したつもりかも？ 本当に理解しているのか？」と思ったら自問自答してください。理解したつもりだったら、調べたり考えたりして「理解したつもの」を「理解している」に変えてください。

「理解している」で、内容が明確に伝わる技術文書を書くことができます。